



多文化共生交流会 2025.3.2

笑顔いっぱい日本語教室 吉野川市国際交流協会

Japanese Classes full of Smiles



2024年10月5日に吉野川市市制20周年記念式典が鴨島公民館で開催されました。吉野川市は平成の大合併による徳島県内第1号の合併市として発足し20年を迎えました。吉野川市国際交流協会も合併に伴い、鴨島町国際交流協会の組織を拡大し、2004年10月に設立して20年になります。式典では、様々な分野で活躍された方々が記念表彰されました。萩森健治前吉野川市国際交流協会会長も多文化共生など地域社会づくりの向上に貢献した功績により表彰され、個人表彰の代表として原井市長から表彰状を授与されました。長年の国際交流の活動が評価されたことをとても嬉しく思います。

2024年度は、日本語教室はじめ、国際理解講座、在住外国人によるグローバルセミナー、四国遍路のインバウンド支援のためのお遍路語学ガイドなどを開催しました。円安やコロナなどで海外旅行に出かけるのが難しくなりましたが、地元にながら世界に触れることができる活動を展開しています。日本語教室では、新たにパキスタンの家族を迎え、難民の在留資格支援などにも尽力しています。在住外国人は

技能実習制度の改正に伴い在留資格が変わるなど様々な問題を抱えていますが、徳島県国際交流協会や行政書士などの専門家とのネットワークを築き支援活動を行っています。

2025年1月末の在住外国人の人数は昨年に続き、500人を超えました。介護施設の専門職に就く外国人も増え、日本語を上手に使いこなす外国人も増えてきました。昨年の徳島県日本語弁論大会では、山川の原田食品に勤めるインドネシア出身のディアさんが2位にあたる徳島県議会国際交流議員連盟会長賞を受賞しました。大学の留学生が多い中、企業で働く技能実習生が受賞するのは快挙です。これもひとえに日本語を指導していただいている講師の皆様のご指導の賜物です。日本語教室は1992年から30年以上開講していますが、帰国後も受講生から連絡があり、近況報告を随時会員だよりに掲載しています。日本語教室では、毎週日曜日の日本語学習のほか、俳句・書道ワークショップ、浴衣着物着付け、阿波踊り、もちつき大会など多彩なイベントを行っていますので、お気軽にご参加ください。2025年も市民の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。

吉野川市の外国人登録数 (2025年1月31日現在) : ベトナム152人、中国136人、インドネシア104人、フィリピン49人、ミャンマー28人、カンボジア23人、パキスタン13人、スリランカ13人、米国12人、韓国7人、タイ6人、ネパール5人、英国4人、カナダ4人、インド3人、ハンガリー3人、モンゴル2人、ルーマニア2人、ロシア2人、台湾、ブラジル、ドイツ、ニュージーランド各1人 23か国 合計572人

《特集》吉野川市制20周年 これまで10年の歩み

《Special Topic》 20th Anniversary of Yoshinogawa City - A Decade of Progress

萩森 健治
Hagimori Kenji

吉野川市は2024年10月に市制20周年を迎え、同時に吉野川市国際交流協会（YIA）も設立20周年を迎えました。私はYIA設立10周年の2014年に副会長に、翌年に会長に就任し、2023年に瀬尾会長に引継ぎました。その間の主な活動を振り返ります。

市内在住外国人の推移：2012年ごろまで300～350人で推移していた外国人登録者数がそれ以降右肩上がりに増加し、2020年に400人を超えコロナ禍で一時減少したものの2025年には過去最多の572人となりました。この10年間、とくに増加したアジア系外国人に対する支援や共生が大きな課題となりました。

在住外国人の支援と共生：2014年度に市制10周年記念として「世界を楽しく旅する講座」を副会長として実務を担当しました。オセアニア編、北アメリカ編、アフリカ編、アジア編の4回です。アフリカ編ではJICA主催の青年研修プログラムでアフリカのガーナ、マラウイなど9か国から来日された17人の保健医療分野の方々がそれぞれ民族衣装で出席し、市民や会員と交流しました。



2015年度に、県内に在住するモンゴル出身の留学生の人たちと「モンゴルの1日・文化交流会」、鴨島小学校と上浦児童クラブで「モンゴル理解講座」を開催しました。徳島大学留学生のエギさんが活躍しました。

2016年度に、外国人の日本文化体験として「書道ワークショップ」や、地域活動への参加として「もちつき大会」の共催を始めました。これらの活動は現在も続いています。

2018年度に飯泉県知事（当時）が日本語教室を視察し「輝け徳島わくわくトーク」が開催され、知事と日本語教室の講師や受講生らと懇談しました。また、日本語教室の受講生のホックさんが、徳島県日本語弁論大会に初出場しました。以来、2024年度まで7年連続で受講生が出場しています。



2019年度には、外国人労働者の受け入れ拡大を図る「特定技能」制度がスタートし、「日本語教育推進法」が成立。YIAの外国人に対する支援活動のニーズがより高まりました。そのような中で、2020年度に山

川日本語教室を新規に開校。また「浴衣着物着付け体験会」を初開催しました。



2021年度に「日本語スピーチコンテスト」を初めて開催。以来、現在まで継続しています。

2022年度にYIA設立30周年を迎え、この年YIAの日本語教室が徳島県から「とくしまユニバーサルデザインによる

まちづくり賞」を受賞しました。また、「市長としゃべらん



で」で吉野川市長と萩森が対談し、市の広報誌に掲載されました。

コロナ禍での活動継続

2020年春ごろから感染拡大したコロナ感染症のためYIA活動は大きな制約を受けました。活動拠点であった文化研修センターが休館、対面での会議や日本語教室は休止、書道ワークショップ、阿波踊り、もちつき大会、多文化共生交流会などのイベントは2～3年間中止せざるを得ませんでした。しかし、総会は文書審議で、日本語教室はZoomによるリモートなどで工夫をしながら継続しました。バスツアーについては感染小休止の時期を狙って、感染対策をしながら実施しました。いろいろな制約下で活動を継続しましたが、活動中に感染者が発生しなかったのは幸いでした。



市制20周年記念表彰

おかげさまで、2024年の市制20周年式典で受賞。これまでご支援、ご協力いただいた市教育委員会や協会会員の皆様に感謝申し上げます。



外国人お遍路ガイド

Henro Guide for Foreigners

田村 実
Tamura Minoru

最近、外国人お遍路さんをよくみかけませんか？日本語で十分なコミュニケーションができない中、様々な不安を抱えながら、1人で、はるか日本の四国まで、やってくる。正確なデータはないが、外国人遍路は最近で2000～3000人位（全体の3～4%）、宿泊予約、遍路ルートの情報、お遍路用品の入手、体験談の共有等様々なテーマがあります。特に、11番札所藤井寺では、翌日に神山の12番焼山寺に向かうため、多くのお遍路さんが、鴨島で宿泊される。地元の人々との交流も含めて、彼らのニーズに添えるガイドグループ作りを目指して、2024年5月より講座を開設しました。

講座の概要は以下のとおりです。

1. 毎月、第1週の月曜日の10時と第3土曜日の13時から、90分の講座を鴨島公民館で実施。テキストは、AWA88が1993年に発行した、「阿波遍路」(日英対訳)を使用。
2. 実地研修という事で、札所を訪問し、住職さんの説明も聞き、寺の歴史、弘法大師に対する認識も深める。

3. 進行中の四国遍路を世界遺産にという活動に協力していく。

ご興味のある方、参加いかがですか？将来的には、吉野川市に英語ガイドグループの育成を願っています。写真は、藤井寺で福留住職さんと一緒に。

四国遍路は、我々の超一級の財産、もっと知って行きましょう。



カミーノ(スペイン巡礼)についてのパネル展と講演

Camino de Santiago: Panel Exhibition and Lecture

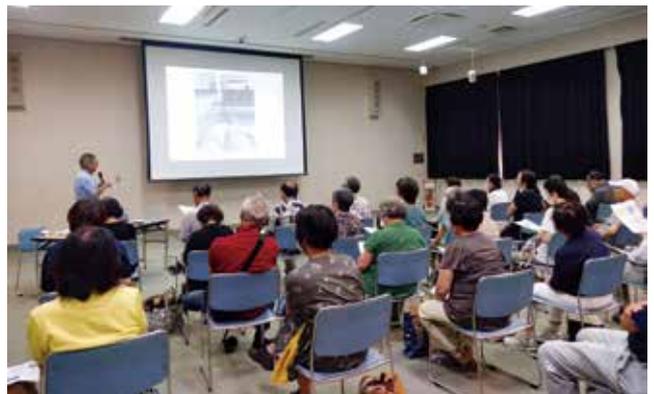
長島 一博
Nagashima Kazuhiro

私は2023年5月末から7月にかけてスペインのサンチアゴ・デ・コンポステーラを目指してフランスのサン・ジャン・ピエ・ド・ポーという街から800kmを35日かけて歩きました。いわゆるフランス人の道と呼ばれる巡礼路(カミーノ)です。現在では巡礼と言っても宗教的な面はあまりなく、世界各国から年間30万人以上の老若男女が歩いています。



広大な荒れた大地とアップダウンのどこまでも続く道。1日30km近く歩いて、やっとたどり着いた小さな村の宿(アルベルゲ)。食べて、二段ベッドで寝るだけの日々。歩き疲れ、孤独感にさいなまれて心が折れることもしばしば。それでもまた翌朝6時頃から出発。いつのまにか色々な国の人と顔見知りになり、何

度か同じ宿に泊り、お互いの様子を気に遣うようになり、声を掛け合い、そして笑顔が戻ります。私はこの経験を2024年7月にYIAのご支援でパネル展と講演をさせていただきました。パネル展ではスペインの街や村、広大な景色を展示し、講演ではアルベルゲのこと、食べたもの、歩いた道などを紹介しました。この講演には多くの方がきてくださり、それ以降にもテレビや本などの情報があり、行きたいと思った方からの問い合わせも多くありました。多様な文化のなか言葉の壁を越えて心のつながりを目指すYIAの活動を通して、この素晴らしい世界を多くの方と共有できたことに感謝します。



国際交流バスツアー

Bus Tour of International Exchange

◆秋の姫路城バスツアー

Fall Himeji Castle Bus Tour

川村 雅子

Kawamura Masako

11月17日に開催した恒例のバスツアーに今年も参加しました。今回が私にとって初めての姫路城です。参加者は39人でした。旅行にカラオケセットを持参していた参加者がいて、行きのバスではベトナム人のホックさんがみんなにマイクを回しながら率先して明るい雰囲気を作ってくれ、旅行気分を盛り立ててくれました。聞くところによると、ベトナムの人々はこういう時によくカラオケをするのだとか。ネットでカラオケセットを買って所持している人が多いと教えてくれました。みんな当たり前のようにスマホで曲を探してカラオケセットに飛ばして歌を歌っていて、使いこなしているなあと感じました。私が通信機器が苦手なだけかもしれませんが……。

さて、バスは到着し、各々グループに分かれてメインの姫路城へ。私は山川教室に参加されている中国人の王さんと一緒に散策しました。城と言えば川島城くらいしか知りませんが、まったく異なるスケールのお城に圧倒されました。外国人観光客がたくさんいて、歩いていると四方からいろいろな言語が聞こえてきます。こんなに日本的な場所にいるのに日本じゃないような不思議な感覚がしました。そしてびっくりしたのは、天守閣へ上がる道中の渋滞です。普通なら標高が上がるほどに寒くなるはずなのに、階層が上がるごとに床面積が狭くなり、結果としてどんどん人口密度が高くなるため、熱気ムンムンで半袖でも暑いくらいでした。天守閣から外に出ると、広々とした敷地や近くの公園をのんびり散歩しました。そして帰りの集合時間が近づきバスに戻ろうとして、はたと、「バスどこだったっけ?」と立ち止まりました。私は勘を頼りに王さんを誘導して無駄に歩き回り、結局王さんの言うとおりに歩いていくと駐車場に辿り着くというお粗末なエピソードを付け足してしまいました。ともあれ、今年は昨年以上に多くの参加者と会話をしたり写真を撮りあってぐんと距離が縮まったように感じた、素敵なバス旅行でした。



◆楽しかったバスツアー

Enjoyable Bus Tour Memories

グエン ホン ホック

Nguyen Hong Hoc

11月17日に姫路城公園へのバスツアーが行われました。みんなこの旅行を楽しみにしていたので、素敵な服装とメイクを準備していました。待ち合わせの鴨島駅では「私の母」と呼ぶほど大好きな先生と久しぶりにお会いして、温かく愛情のこもったハグを交わしました。バスのみんなの顔はこの旅に対する期待で明るく輝いていま



ました。バスが最後のピックアップ地点に着くと、私が日本に来たばかりの頃から日本語を教えてくれていた先生が待っていました。先生への感謝の気持ちと愛情を表現する言葉が見つからないくらいです。しかし、旅行

には参加されないとわかり、その場の雰囲気が一気に静かになりました。バスが発車したとき先生は雨の中、遠くから私たちに手を振って楽しいツアーになるようにと見送ってくれました。

バスの中では、旅の雰囲気をさらに楽しく賑やかにするために一緒にカラオケを歌いました。途中休憩地に寄ったのですが、景色が本当に素晴らしく、お互いに写真を撮り合って美しい思い出を作りました。目的地に到着すると、集合写真を撮ってからそれぞれのグループに分かれました。

まず外国人観光客が非常に多いことに驚きました。そして、なぜ昔の人々は現代まで価値を持ち続ける堅固で精巧な建造物を建設できたのだろう、と城を見ながら疑問に思いました。たくさんの美しい写真を撮って、お昼近くになると近くのフードスタンドやお土産屋さんが集まる所で昼食をとりました。安くて美味しかったです。昼食の後、私たちのグループは流行っているSNSの曲に合わせてダンスをしました。とっても楽しかったです！友達と一緒に踊るのは最高ですよ。それから、一緒に買い物をしたり紅葉と写真を撮ったりして、時間はあっという間に過ぎました。

帰りのバスではビンゴゲームをしました。楽しくて、みんな熱心に参加しました。私は景品としてハンカチをもらいました。みんなが賞品をもらったので、全員が明るく楽しそうな笑顔を浮かべていました。遊び疲れた私は眠りに落ち、目が覚めると外はすっかり暗くなっていました。鴨島駅には午後6時頃到着しました。私はバスの中で先生や友達に挨拶をしました。みんな次の旅行を楽しみにしていました。

◆はじめての阿波踊り

First Awa Dance Experience

村上 瑛一

Murakami Eiichi

8月16日の「吉野川市阿波踊り」に町内「山田縫製」のミャンマー人とカンボジア人実習生16人が参加しました。外国人の踊り手は他に2組ほどだったようで、この人達が出てくれてよかったです。ひと月ぐらい前から打診していましたが、山田社長が15日の休日と振替をしてくれましたので、全員が参加することができました。半数が来日したばかりの人達なので、心配していましたが、すぐに踊りの雰囲気に溶けこんでいました。私は脚が弱っているので、参観するつもりでいましたが、安部さんや実習生たちが車椅子を用意して押してくれ、一緒に踊りに加われたのは望外の幸でした。ひと流れ踊り終えて、駅前で輪舞のあと解散となりましたが、彼女たちは皆名残り惜しそうにしていました。

瀬尾会長からの依頼で、皆さんに初めての「阿波踊り」参加の感想を聞いてみました。皆さん、「楽しかったです」、「面白かったです」、「また参加したいです」と言った感想や、「ミャンマーやカンボジアでも似たような踊りがあるので、踊るのは下手ですが、溶け込むのに違和感はありませんでした」と言った言葉が返ってきて、大変嬉しく思いました。特に、「初めてのことで不安に思っていたのですが、踊りに参加できて幸せを感じています」（カンボジア）「元気をもらいました」（ミャンマー）と言った声があり、私もその言葉に大変感銘を受けたことでした。



日本語教室・2024年度の活動報告

Activities of Japanese Classes in 2024

鴨島教室：萩森 健治

Hagimori Kenji

日本語教室は、鴨島教室と山川教室の2か所で毎週日曜日に開催しています。来校する学習者の多くは、市内や近隣地域で技能実習、特定技能などで働く外国人で、登録者総数は50人です。ボランティア講師は両教室合わせて14人です。

教室の課題は、①学習者の出席人数にばらつきが多く講師の割り当てに苦心する ②学習者の日本語レベルにかなりの差がある ③講師の人数不足や高齢化 ④講師の研修などが十分できない ⑤学習者の受入れ企業や組合との連携が難しいことなどです。

鴨島教室：学習者は、東南アジアなど8か国出身で、4～8人が出席しています。数年前まで多数出席していたベトナム人が減り、最近ではインドネシア、ラオス、カンボジア、タイ、中国からの実習生が来校するようになりました。出席者の顔ぶれは日によって変化がありますが、ネパール出身の土木エンジニアとパキスタンの家族5人はほぼ毎週出席する常連さんです。



ボランティア講師は8人で、毎回2～5人が出席し来校した学習者の日本語レベルや学習目的に応じてグループに分けて指導しています。また日本語能力試験の受験対策なども行っています。時々、地域の高校生、留学経験者、行政書士、大学の先生、映画監督などが見学したり、講師として指導したりしています。

山川教室：山川教室は、毎週日曜日10時から11時半まで山川公民館で開催しています。

日本語ボランティア講師は4名～6名、学習者は10名前後で、最近ではベトナム、インドネシア、カンボジア、中国の実習生が多く来校しています。学習は、自分たちのやりたいこと（初歩の日本語、日常会話、日本語テスト対策N2・N3・N4）に分かれ熱心に取り組んでいます。



山川教室：平田 仁子

Hirata Kimiko

教室での学習ばかりではなく、もちつき大会、花見、日本語弁論大会、バス旅行、着物着付け教室、俳句・書道体験等、日本の文化や伝統行事も地域の皆さんと一緒に学ぶ場となっています。

実習生の皆さんは、とても意欲的に学習に取り組んでいて、日曜日は仕事で疲れていても、日本語の勉強を楽しみに毎回参加する人がほとんどです。クラスも和やかな雰囲気でお互いの国の文化を尊重しながら、実習生が少しでも早く日本語を習得して、楽しい日本での生活が送れるように支援しようと、ボランティア講師の皆さんも頑張っています。

◆日本語教室スピーチコンテスト

Speech Contest for Japanese Classes

大塚 貴司

Otsuka Takashi

7月14日に吉野川市の日本語教室の受講生による日本語スピーチコンテストが行われました。過去最多の60人の参加者でした。前半は、ベトナム、中国、カンボジア、ネパール出身の受講生が母国の紹介と自己紹介のスピーチでした。とても緊張し



ていたようですが、上手に日本語でスピーチができていました。来年はこの中から何人が徳島県日本語弁論大会にチャレンジして欲しいです。後半は徳島県日本語弁論大会に出場するインドネシアのエラさん、ディアさん、ベトナムのトウさんのスピーチでした。仕事の合間とか日本語教室やリモートなどでのスピーチの練習、大変だったと思います。日本人でも緊張すると思いますが、3人のスピーチは堂々としていて弁論大会でも上位を狙える素晴らしいスピーチでした。スピーチの時のジェスチャーや笑顔がとても良かったです。21日の徳島県の大会には日本語教室のみんなまで応援に行きました。



◆日本語弁論大会に参加して

Participating in Japanese Speech Contest

三原 敦子

Mihara Atsuko

7月21日に開催された徳島県日本語弁論大会にYIA日本語教室のグエン・ティー・トゥ（トゥ）さん、セプティ・ウイディア・プトリ（ディア）さん、ファメラ・プトリアディ（エラ）さんの3名が出場しました。応援団として、日本語教室からは私を含め5名、受講生の所属企業の社長や仕事仲間など12名が会場の「あわぎんホール」に集まりました。出場者は14名で、内訳はインドネシア8名、中国3名、ベトナム、ネパール、ラオス各1名、その内留学生在が9名でした。留学生の皆さんは学生生活の中で感じた日本や徳島に対する思いやカルチャーショックについて話してくれました。きめ細かなごみ分別処理、時間を守る日本人、優しい日本人等聞いて「期待を裏切らないように頑張らないといけないなあ」と思ったのは私だけでしょうか？トゥさんは「介護の仕事は大変だが、利用者さんの感謝の言葉や同僚の優しさで救われている」、エラさんは「あきらめずに何度もチャレンジすれば、必ず思いは通じる」、ディアさんは「生き生きと自立した日本のおじいちゃん、おばあちゃんが私のあこがれだ」とそれぞれの思いを語りました。結果はディアさんが徳島県議会国際交流議員連盟会長賞（2位）を受賞する快挙。エラさんが徳島市国際交流協会特別賞、トゥさんが努力賞を頂きました。最優秀賞は中国出身のリユウ・チョウさん（在住4か月、鳴門教育大）で、目を閉じて聞くと日本人が話しているのかと思うほどの話しぶりでした（納得）。聞くたびに学びのあるこの大会に我々を連れて行ってくれたトゥさん、エラさん、ディアさんに感謝です。



◆浴衣・着物着付け体験

Experiencing Yukata & Kimono

安部 正美

Abe Masami

10月6日に浴衣・着物着付け体験会を実施しました。衣装は、小川和美さん・渡部真弓さんのご厚意により、打掛、羽織袴、ウェディングドレスに今回はチャイナドレスまでご用意くださいました。当日は、日本語教室受講生23人、着付け指導、国際交流協会関係者他13人の計36人が参加しました。始めに萩森副会長が用意した「あみだくじ」を参加者が引き、順番に自分

の選んだ浴衣に着替え記念撮影をしました。ベトナムから来日中のハンさんのお母さんも飛び入りでこの体験に参加し、大いに楽しみました。また、着付け指導の乾さんは、子供用に七五三の衣装を準備し、ハンさんの娘さんとパキスタン出身のズレハさんの息子さんに着せてあげました。とても可愛らしかったです。羽織袴には3人の受講生が初体験。アトラクションとして渡部真弓さんが袴姿で日舞を披露しました。受講生の皆さんは思い思いのポーズで写真撮影をするなど、初めての体験に参加した皆さんは大喜びでした。そして、たくさん笑顔を見て本当にうれしく思いました。



◆もちつき大会

Rice cake pounding Party

岡田 晋

Okada Susumu

恒例の西麻植青年会館とYIA合同のもちつき大会が1月19日に行われました。

当日は、厳しい寒さでしたが、雲一つない晴天に恵まれ、約70人が参加して、西麻植青年会館会員や地域の方たちと一緒に「もちつき大会」を開催。国際交流協会が参加するのは今回が7回目、1月の定例行事として定着しています。協会会員、日本語教室に来校するベトナム、インドネシア、カンボジア出身の人たち、TOPIAの長田さん、徳島市内の行政書士事務所の杉尾さんなど40人が参加。初めてもちつきに挑戦する人が多く、大きな掛け声にあわせて力いっぱい「ぺったんこ」とおもちをつきました。室内では、おもちを丸めることにも挑戦し、皆さんは初めてと思えないほど上手におもちを丸めていました。広間では、吉野川市のカルタで遊んだり、福笑いのゲームをしたりして楽しみました。西麻植青年会館の方たちとも一緒に楽しみ、交流をしました。初めてもちつきに挑戦した受講生らは楽しそうでした。そして、つきたてのおもちが入ったぜんざいを皆で美味しくいただき、おもちをお土産にもらって帰りました。参加された皆さん、ありがとうございました。



地域国際交流 Regional International Exchange Activities

◆川島高校Summer Challenge授業

Kawashima High School Summer Challenge Class

羽山 知恵子

Hayama Chieko

YIAは、活動を通じて互いに出会い、互いの国情、文化、歴史にふれ合う交流を行っています。その一環として外国人と高校生の若い世代との交流を昨年新しくスタートし、2024年8月19日に第2回サマーチャレンジを川島高校で開催しました。今回の講師は、パキスタン出身のTaryqさんご一家でした。高校生15名、教師2名、YIAから6名が参加し、田村副会長の司会であたたかい交流となりました。

講師のタルファさん、アリーバさん、ズレハさんが、パキスタンの歴史、文化、イスラム教、政治経済や日常性、パキスタン料理（チキンカラヒやニハリはミートと野菜のスパイシーな煮込み料理）などについて、パワーポイントで丁寧に説明しました。

ご一家は日本での経験の中で共有する価値観を通じて平和と相互理解を希求し、“Beyond borders”（境界を越えて）の思いが高校生達に伝わったことでしょう。

次に萩森副会長が、在住外国人の状況やYIA活動を説明しました。その後、生徒達は4つのグループに分かれ、タルファさん達が各テーブルに参加し、日本の印象や将来の夢を始め数々の対話が行われ、有意義な交流会でした。英語で生き生きと質問する高校生達！未来に輝く若人にとってパキスタンが身近に感じられた豊かなSummer Challengeになったことでしょう！



◆第6回グローバルセミナー

The 6th Global Seminar

瀬尾 規子

Seo Noriko

グローバルセミナーでは、地域に住む外国人の方をお招きしてお話をいただいています。

2024年11月30日に、第6回グローバルセミナー「アメリカ・ウィスコンシン州あれこれ」を開催しました。講師は、9月から吉野川市のALT（英語指導助手）として、鴨島第一中学校と知恵島小学校で勤務しているアンドリュー・キムさんでした。アンドリューさんのご両親は韓国出身で、父親が仕事でウィスコンシン州に移住しました。ウィスコンシン州はミルウォーキーが一番大きな街で、美しい街ですが冬は-20℃にもなるそうです。アンドリューさんは両親と一緒にたびたび韓国を訪問しています。

韓国のお話もしていただきました。故郷は田舎なので、徳島が気に入っているそうです。韓国は兵役があるのでアメリカ国籍を取っています。大学では「英語」を専攻し、「日本語」を副専攻し3年間学びました。小説を書くのが得意で、日本文学では源氏物語に関心があるそうです。講演の後、得意なヴァイオリンでヴァルディーの曲を演奏してくれました。上手な演奏で、聞き惚れました。



吉野川市のALTの紹介

Introduction of ALTs (Assistant Language Teacher)

瀬尾 規子

Seo Noriko

①勤務校 ②出身 ③専攻 ④趣味

Samantha Ross (サマンサさん)

- ① 鴨島小学校、西麻植小学校、飯尾敷地小学校
- ② デンバー(US コロラド州)
- ③ 人類学
- ④ 写真、料理



Robin E.Kelly (ロビンさん)

- ① 鴨島東中学校、森山小学校、牛島小学校
- ② ターボン・スプリング(US フロリダ州)
- ③ 世界言語と文化
- ④ 絵画、音楽鑑賞、写真



Alexandora Morris Danielle (アレックスさん)

- ① 川島中学校、川島小学校、学島小学校
- ② ジャクソンビル(US フロリダ州)
- ③ 中国語とスペイン語
- ④ 絵画、お菓子作り



Gbonda Mohamed Kamajor (ボンダさん)

- ① 山川中学校、山瀬小学校、高越小学校
- ② アッパー・マルボロ(US メリーランド州)
- ③ アニメーション
- ④ 絵画



Andrew Kim (アンドリューさん)

- ① 鴨島第一中学校、知恵島小学校
- ② ミルウォーキー(US ウィスコンシン州)
- ③ 英語
- ④ 運動、音楽、創作、ゲーム



事務局だより

2024年度吉野川市国際交流協会役員

会長 瀬尾規子
 副会長 萩森健治、田村 実
 三原敦子
 監事 乾喜美子、浅野充代
 会員数 53人・5団体（2025年1月現在）



専門部の活動

◎支援部（担当：萩森健治副会長）

- (1) 日本語教室の開催
- (2) 日本語サロンの開催
- (3) 学校での日本語学習支援
- (4) 市内滞在あるいは訪問外国人への通訳支援
- (5) 各種講習会への参加



◎交流部（担当：田村 実副会長）

- (1) 国際理解講座の開催
- (2) 地域国際交流の支援
- (3) 在住外国人との交流事業
- (4) ホームステイ・ホームビジットの受け入れ
- (5) 阿波踊りへの参加
- (6) 国際交流バスツアー
- (7) 日本文化を紹介する講座
- (8) 外国人お遍路ガイド講座



◎広報部（担当：瀬尾規子会長）

- (1) 「国際交流よしのがわ」第21号の発行
- (2) YIA会員だよりの発行
- (3) YIAホームページ

◎会計（担当：三原敦子副会長）

- (1) 会計の管理
- (2) 会費



日本語教室ボランティアスタッフ募集

毎週日曜日の日本語教室にボランティアとしてお手伝いをしていただける方を募集しています。見学も大歓迎です。日本語で異文化交流をしませんか？

会員募集

吉野川市国際交流協会では、新しく会員になってくださる方々をお待ちしています。外国語が話せなくても興味のある方はどなたでも随時入会できます。事務局にお気軽にお尋ねください。

年会費：個人 2,000円、団体 5,000円
 事務局：吉野川市教育委員会生涯学習課
 TEL (0883) 22-2271、FAX (0883) 22-2270
 e-mail: s-gakushuu@yoshinogawa.i-tokushima.jp



2024年度の主な活動

[2024年]

- 4月
 - ・日本語教室花見（4/7 山川・平田さん宅）
 - ・日本語教室お茶会（4/14 山川支所）
- 5月
 - ・YIA総会（5/12 文化研修センター）
 - ・記念講演会：「イタリア・ローマ滞在記」三栖秀昭さん
 - ・日本語教室バラ園見学（5/19 山川町高田さん宅）
 - ・鴨島ライオンズクラブとの交流会（5/26 後藤田さん宅）
- 6月
 - ・グローバルセミナー・カナダ（6/22 文化研修センター）
- 7月
 - ・ALTテクスさんの送別会（7/7 レストラン・カナ）
 - ・吉野川市日本語スピーチコンテスト（7/14 山川公民館）
 - ・徳島県日本語弁論大会に日本語教室受講生3名出場（7/21 あわぎんホール）
 - ・国際理解講座「スペイン巡礼800km歩き旅」（7/27 文化研修センター）
 - ・スペイン巡礼パネル展（7/25～7/31 文化研修センター）
- 8月
 - ・川島高校・サマーチャレンジ（8/19 川島高校）
 - ・阿波踊り（8/16 鴨島駅前中央通り）
 - ・阿波和紙会館の通訳ボランティア
 - ・新ALTアンドリューさんの茶話会（8/31 文化研修センター）
- 9月
 - ・外国人技能実習機構との面談（9/6 文化研修センター）
 - ・俳句・書道ワークショップ（9/15 文化研修センター）
 - ・日本語教室の見学と昼食会・ブルガリアのペリコタルノヴォ大学と徳島大学の先生（9/22 山川支所、レストラン・カナ）
- 10月
 - ・浴衣・着物着付け体験会（10/6 文化研修センター）
 - ・遊墨アート展で「俳句・書道」作品展示（10/11～10/13 鴨島公民館）
 - ・映画撮影（道草キッチン）（10/13 山川支所）
 - ・外国人お遍路ガイド講座
藤井寺見学（10/8）安楽寺見学（10/16）
- 11月
 - ・バスツアー（11/17 姫路城）
 - ・グローバルセミナー・US（11/30 文化研修センター）
- 12月
 - ・日本語教室忘年会（12/22 鴨島・山川）

[2025年]

- 1月
 - ・もちつき大会（1/19 西麻植青年会館）
- 2月
 - ・パキスタン家族とのお食事会（2/1 吉野町）
- 3月
 - ・多文化共生交流会（3/2 文化研修センター）
 - ・機関誌「国際交流よしのがわ」第21号発行

◎定例理事会 毎月末に計12回開催

◎日本語教室（毎週日曜日、鴨島：午後、山川：午前）

◎外国人お遍路ガイド講座（第1月曜日、第4土曜日）



◆ 編集後記 ◆

2024年は能登半島地震で始まり、今後は南海トラフ地震の発生が危惧されています。在住外国人が572人となり、外国人も危機管理が必要となってきています。国際交流をとおして、お互いに助け合う関係づくりを作っていきたいと思います。（瀬尾規子）